

令和3年度「関係人口創出・拡大のための対流促進事業」 成果報告資料

垣根を越えた全力応援会議！
「Beyondミーティング」による関係人口創出事業
～2025年までに100のプラットフォームがつながる多極分散型の連帯へ



団体名：andBeyondカンパニー／NPO法人ETIC.



1.事業概要・スキーム図

関係人口は、漠然とした地域名ではなく、具体個人との結びつきの中で生まれていく

意志ある挑戦者を応援するアイデアブレスト会議“Beyondミーティング”の展開を通じて
、各地に応援の結びつきによる関係人口を創出する
更に、開催地域・異セクターが繋がりあう仕組みを構築する

本事業における2つの取組

①地域／他セクターでの、 モデル実施および伴走支援

新たな挑戦者と、その挑戦者に関わる関係人口を増やす循環を、各地域主催者と共に作る。
元々地域にあるコミュニティや実施されているプログラムとも連動しながら、地域の挑戦が応援され、
地域外の人と地域内挑戦者を繋ぐ流れを作る。

「安心安全で応援文化に満ち溢れた場」づくり
地域内から意志ある挑戦者が増え続けていく

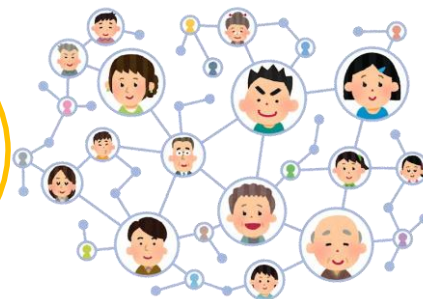
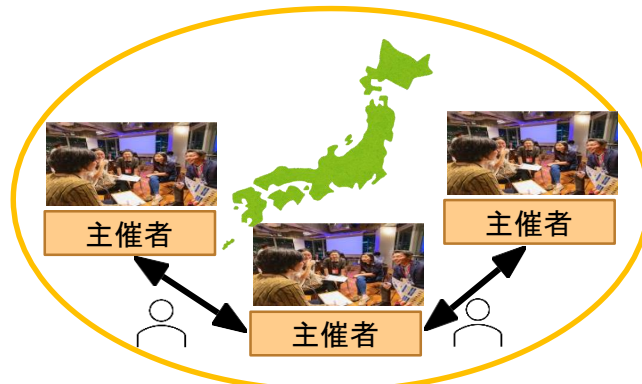


挑戦者を軸にして
地域内外に応援団
コミュニティが形成
＝関係人口



②主催団体が繋がる仕組み ・共通で使える基盤づくり

主催団体が集い、BMの活用方法・運営ノウハウの情報交換・相談を実施。
また、各地域の立上げ・継続開催負担が少なくなるよう、共通で使えるマニュアルやインフラを整備する

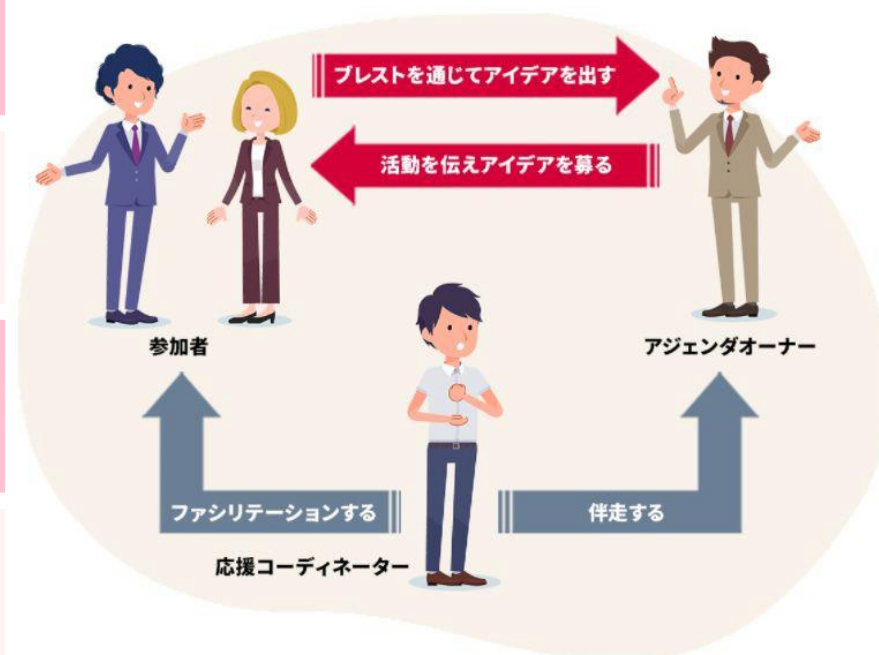


1.事業概要・スキーム図 Beyondミーティングとは

- 組織・立場・世代を越えて誰もが参加できる、社会課題解決や新しい価値創造への挑戦者(アジェンダオーナー)を全力で「応援」するブレスト会議
- アジェンダオーナーによるプレゼンの第1部と、参加者がアイデアを出し合うことでアジェンダオーナーを応援する第2部の2部構成。
- アジェンダオーナーはお題を参加者に投げかけ、アイデアブレストを行い、人脈を拡げるとともに参加者から応援を受ける。 ※カマコンにインスピレーションを受けて実施
- and Beyond カンパニー主催では2018年から毎月実施・41回の開催実績
- 企業・地域による自主開催サポートは2019年から実施・40回の実績(共に2022年2月時点)
→型があり、開催しやすい

Beyondミーティングの流れ

- 1 ピッチタイム**
アジェンダオーナーが各回4～6名ピッチし、“お題”(アジェンダ)を投げかけます。
- 2 ブレスト作戦会議**
お題ごとにグループに分かれ、アイデアを出し尽くします。
- 3 つながる**
「打合せしたい」「紹介したい人がいる」など応援アクションを表明できる"応援フォーム"を通じて繋がります。
- 4 つづける**
参加者限定オンラインコミュニティ「BM Talk」に参加いただき、繋がりを継続いただけます。



令和3年度 Beyondミーティング 主催団体一覧 ※予定中団体を含む

2020年度までに地域・企業で20回の開催サポートを実施したが、21年度は単年度で21回まで自主開催数を広げることができた。地域では7地域9回(+予定中1地域)で開催、各地域の背景・ニーズに沿って活用

主催団体種別	主催団体	地域
地域	NASA Project(一般社団法人パイオニズム)	福島県南相馬市
	ローカルフラッグ	京都府与謝野町
	森あそびラボ! (島根県雲南市×NPO法人おっちらぼ×YAMAHA発動機)	島根県雲南市
	Startup Lab Lagoon	沖縄県
	四国EPO(環境省四国環境パートナーシップオフィス)	香川県高松市、 四国全域
	応援しあう東北(TOMODACHI ファミリーマート SDGs リーダーシッププログラム in 東北 実行委員会)	東北全域
	Sg-Parkランチ大津京 (株式会社Seventh Generation Project)	滋賀県大津市
	東海若手起業塾	静岡県、愛知県 岐阜県、三重県
プラットフォーム	地域活性化センター	—
	聖学院中学校	—
	TeamExpo2025(公益社団法人2025年日本国際博覧会協会)	—
	「STI for SDGs」アワード(科学技術振興機構)	—
	地域循環共生圏フォーラム2021(環境省)	—
企業	アビームコンサルティング株式会社	—
	PwCコンサルティング合同会社	—
	江崎グリコ株式会社	—
	ZSアソシエイツ	—

2.活動内容(①地域／他セクターでの、モデル実施および伴走支援)

Beyondミーティング×森あそびラボ！特別版

～楽しむことで、森林の空間利用の可能性を考える～

(事務局: 島根県雲南市×NPO法人おっちらぼ×YAMAHA発動機)

●背景: 森林活用・保全というテーマをもとに、地域とセクターを超えて関係人口の拡大を目指したい。テーマに関心が高いプレイヤーが集まる中で、雲南市の森を舞台にしたプロジェクトも始まると理想的

- ・9,12月の2度実施。年度内に3回目を実施予定。9月回では8割以上が島根県外在住
- ・県外の参加者がBeyondミーティングに参加後、雲南市現地に赴いてイベントを開催



愛犬と森遊び ワンコの森
「Wans Laugh」代表

小田 明氏

ワンコが地球を救う？
森林空間に生まれる
新たなビジネス



NPO法人森の生活 代表理事

麻生 翼氏

森のまち北海道下川町に
森林児童館を
つくりたい！



任意団体 里山照らし隊 隊長

影山 邦人氏

「あわいの杜」で
生まれた木炭蓄電技術で
里山から
途上国を照らしたい！



吉田 城治氏

森林計測を
エクストリームに！新・
森林スポーツ「RINJAK」の
専用ギアをつくりたい！



ヤマハ発動機
モビリティサービスビジネス部

金本拓己氏

森で遊べ！
害獣を減らせ！

2.活動内容(①地域／他セクターでの、モデル実施および伴走支援)

沖縄Beyondミーティング／事務局：Startup Lab Lagoon(所在：沖縄県沖縄市)

●背景：沖縄の起業相談を、自団体単独で受けるのではなく、地域内外のコミュニティで支える仕組みを作りたい。コミュニティが県内に閉じがちなので、県内の挑戦者×県外の応援者を繋げる機会を持ちたい。

- ・Beyondミーティング活用先進地域。昨年度から開催、今年度は6,8,1月に実施。
- ・毎回3分の1程度が県外からの参加者
- ・様々な支援機関と協働開催することにより、相互のコミュニティを繋げ、新たな参加者を獲得。県内での関係人口増加にも成功している

Beyondミーティング #4 ～Z世代と考えるOkinawaの未来～

#20代起業家 #社会課題に挑戦



山田果凜

世界中の子供たちが自由に未来を描く社会の実現を目指す
“トビラカフェ”経営



二宮 あみ

地域をもっと好きになる
エンカル観光アクティビティプロジェクト



亀岡紗奈

教育とメディアを通じた
地方創生をカタチにする
ココ大好きな沖縄で起業



久保 直生

ストレスフリーな子育て
環境と親御さんのゆとりを
創出するプロジェクト



崎濱 花鈴

おからの魅力を伝えてフードロスの解決への第一歩をおからの可能性を考える



玉城 哲真

すべての世代に可能性を
コザの街に多世代交流拠点
“Hanaわらび”運営

6/26 (土) 14:00～16:00

Beyond ミーティング

2.活動内容(①地域／他セクターでの、モデル実施および伴走支援)

Beyondミーティング × Sg-Parkランチ大津京

事務局:株式会社Seventh Generation Project(滋賀県大津市)

●背景:バスケット併設の場をもち、スポーツを入口とした地域づくりに取り組んでいる。地域のスポーツ関係者を繋ぎながら、市民にも、スポーツ×地域といえばSg-Parkと認識してもらい、まずはスポーツ領域での挑戦が生まれる場を作りたい。

- ・地域×スポーツをテーマにした登壇者にてオフライン開催予定だったが、コロナ禍の影響にて直前に延期に。
- ・近隣市区町村(京都市、草津市等)在住者が、参加者のみならず、運営メンバーとしても関わり、地域内関係人口の広がりが感じられた。令和4年5月頃開催予定。



長浜フラッグフットボール協会

伊藤 和真氏

アメフト発祥の町長浜、
まちの歴史を子供たちに
残したい。



京都自転車販売株式会社

近藤 大督氏

自転車と環境と人を"もっと"
ステキな関係に! 京都・滋賀
の空気を"もっと"キレイに!



特定非営利法人 BIWAKO SPORTS CLUB

土井 悠介氏

遊びからスポーツへ!
スポーツ鬼ごっこを通じ
た子どもの育成



NPO法人地球で遊ぼう&桑野造船株式会社

今村 拓也氏

若者も年寄りも、男も女
も、障がいがあってもな
くても、誰もが楽しめる
琵琶湖を!

2.活動内容(②主催団体が繋がる仕組み・共通で使える基盤づくり)

＝3.自立化・自走化の検討 / 4.他地域への横展開の可能性の検討

- 主催者同志のつながり・支えあいのメタプラットフォームを目指すためには、全国で常時月5件程度の開催が行われている状態を目指したい。
- 私たち自身がより持続可能な運営体制を築くこと・各地域主催者の開催ハードルが下がることを目指して、インフラを整備中。

◆マニュアルサイトの構築

主催マニュアルをWEB上に作成、10月に公開。
各地域の実施ハードル・サポート工数の削減



◆ボランティアメンバーが担う運営の広がり

「熱量、勇気、妻との話題」

普段は会社に所属し、新規事業の企画推進を担当しています。起業家の方を伴走させてもらう中で「こんなに熱量ある人たちがいるのか!」と驚かされ、勇気をもらい、励みになっています。

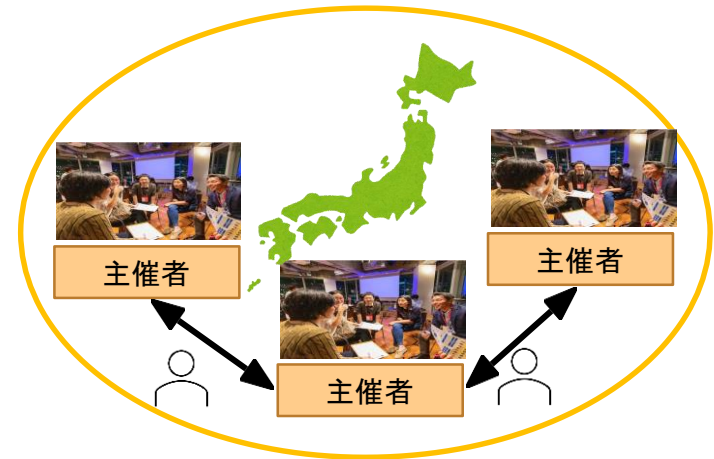
「子供向けサプリメント」や「女性の社会進出」等、いつもは考えないことを考えるきっかけにもなりますし、妻との話題が増えたことも思わぬメリットでした(笑)

まずは自分が応援フルになり、応援力に磨きをかけ、次のステップは会社の応援文化の普及に挑戦します!



◆主催者会議の実施

主催者同士が繋がってノウハウ交換・人材交流ができる関係性の構築。10月に12の主催団体が集う会議を実施。



◆リサーチペーパーの作成 Beyondミーティングの効果や開催事例をまとめたペーパーを作成。自律的に拡散・広がっていくよう目指す。

課題と対策

・実施主体によっては開催ハードルを高く感じる場合も。より簡易にできる型の開発と、マニュアルサイトへの反映を実施中。

Beyondミーティングの自主開催に向けたサポート

- Beyondミーティングは、**どなたでも導入いただけるオープンなフォーマット**です。
- 自団体での開催に興味をお持ちの方に向け、以下サポートをご提供しています。是非ご活用ください。

BM自主開催に向けたサポート

主催者向け 説明会

BMの自主開催に関心をお持ちの方に向けて、説明会を実施しています。これまでの開催事例や、主催に向けたご説明をBM運営事務局から行うとともに、ご不明点を直接お問い合わせいただけます。

説明会の最新情報は [こちら](#) に告知します。

Beyond ミーティング 運営マニュアル

私たちが運営してきたノウハウ・ツールをまとめ、運営マニュアルサイトとして公開しています。初期の計画策定から、各種の事前準備、当日運営、事後対応まで網羅的にご説明しています。こちらのマニュアルを見て、自由にBMを開催いただいても構いません。

運営マニュアルは [こちら](#) です。

お問い合わせ ・ご 相談

ご関心・ご質問などございましたら、お気軽にお問い合わせください。運営事務局による開催サポートも承っておりますので、必要に応じてご相談ください。

お問い合わせ、ご相談は [こちら](#) からお願いします。

Startup Lab Lagoon (沖縄地域BM)①



インタビュー
アー



主催者

作成したリサーチペーパーより
地域主催者へのインタビュー

- Startup Lab Lagoonでは、沖縄県での「官民連携」や「県内外連携」をコンセプトに、行政職員や 起業家、学生など多様な関係者で沖縄の課題解決・まちづくりを目指し、BMを主催されています。

主催
担当者

野中 光さん

主催
概要

沖縄Beyondミーティング #6
～挑戦する人を応援するプレスト会議～
日時: 2022年1月27日(木)19:00～21:00
形式: オンライン ※これまで計6回開催



“Beyondミーティング主催の目的”を教えてください。



沖縄県での「官民連携」や「県内外連携」をコンセプトに加えて、行政職員・起業家・NPO関係者・学生など多種多様な関係者で沖縄の課題解決・まちづくりを目指してBMを主催しました。沖縄県民の方、沖縄出身の県外在住者の方、地球上の沖縄ファンの方など、沖縄を愛する皆様で沖縄のこれからをより良くする取り組みをつくっていきたいと考えています。



“Beyondミーティングを主催したきっかけ”はどのようなものだったのでしょうか？



aBC主催のBMに参加したのが最初のきっかけでした。応援CDやアジェンダオーナーなどに良さを感じて、沖縄でも実施したいと考えて主催しました。私自身、BMに登壇しプロボノで関わっていただけのつながりを見つけ、応援する人が増える良さを実感していたこともあります。他にもBMを通してチームビルディングもでき、オンラインだからこそ沖縄と都市部のつながりができる良さもあると考えています。なかなか自分を応援してもらえる場を自分だけでは作れないので、このような場があればと思い、主催しました。

- Lagoonで起業相談をされている方の応援団を作るべく、アジェンダオーナーとして登壇いただきました。
- 「いつか連携しましょう」と言っていた方とイベントを共催し、形に出来たことが主催して良かったとの声をいただきました。



“どのような人がアジェンダオーナーとして登壇”したのでしょか？



Lagoonでは、沖縄県全体から起業したい方の相談を受けています。500件相談を受ける中、年間75件起業する人が出てます。1対1の相談よりも、その人の応援団を作ることが大事だと思っていたので、その中から登壇していただきました。Lagoonのワーキングの参加者に登壇してもらい、そこから連鎖的に登壇者が続いていたこともあります。

これまで6回のBeyondミーティングのうち、関係性のある人やプロジェクトから、テーマを決めて主催した回もあります。第3回「県内企業のSDGsPJ」では、琉球新報さんの沖縄SDGsプロジェクトとLagoonで何かできないかと話をしていたので、BMを実施することにしました。過去に琉球新報の方が参加してくれていたこともあり、企業とのコラボでBMを実施することができました。



“主催した効果・良かったこと”を教えてください。



琉球新報さんや「いつか連携しましょうね」と言っていた団体、大学生などと挑戦者応援イベントを共催することを実現できたのは良かったです。

支援団体の枠を超えて、狭いコミュニティを抜け出し、沖縄全体を盛り上げていこうという意識を持ってイベントができました。運営の型もあり、どこでも連携しやすく、参加者も活躍していて、応援できるイベントです。

東京の方々の他、ETIC.やaBCパートナー企業の人参加してくれたり都市部と沖縄がつながるのがBMの魅力です。

Startup Lab Lagoon (沖縄地域BM)③



作成したリサーチペーパーより
地域主催者へのインタビュー

- SDGsの推進に力を入れる沖縄県の戦略の中にBMの活用を位置づけることに、今後Lagoonとして挑戦していきたいとの声をいただきました。



“今後、挑戦したいこと”を教えてください。



今後トライしたいことは、SDGsの推進に力を入れる沖縄県の戦略の中に、Beyondミーティングの活用を位置づけることです。来年度から県の10年計画が始まり、スタートアップ支援計画の中に“応援“に近い文言が入っています。県の担当者にも、BMを理解したうえでこの文言を入れていただいています。また、社会性のある個人・小規模団体と大企業の連携を機会に沖縄経済同友会との連携も始まっています。あとは、社会課題解決中MAP*の沖縄版を作りたいです。沖縄版ジモティーのように“課題解決中MAP沖縄”となり、WEBからもアクセスするし、イベントでもつながれるようにしたいです。色んな人のいろんな挑戦が一覧で見れる・集約されることが面白く、社会をよくしたい人が、良くしたいする人を探すWikiになっていて、そこから就職やプロボノも生まれていくと良いですね。

OKINAWA STARTUPスペシャル
Beyondミーティング #6

STARTUP LAB Lagoon ISCO

1/27 (木) 19:00~21:00 @zoom



Beyondミーティングの概要と実績

Beyondミーティングの流れ

- BMIは組織・立場・世代を越えて誰もが参加できる、社会課題解決や新しい価値創造への挑戦者（アジェンダオーナー）を全力で「応援」するブレスト会議です。
- アジェンダオーナー（以下、AO）はお題を参加者に投げかけ、アイデアブレストを行い、人脈を拡げるとともに参加者から応援を受けます。

Beyondミーティングの流れ

1

ピッチタイム

アジェンダオーナーが各回4～6名ピッチし、“お題”（アジェンダ）を投げかけます。

2

ブレスト作戦会議

お題ごとにグループに分かれ、アイデアを出し尽くします。

3

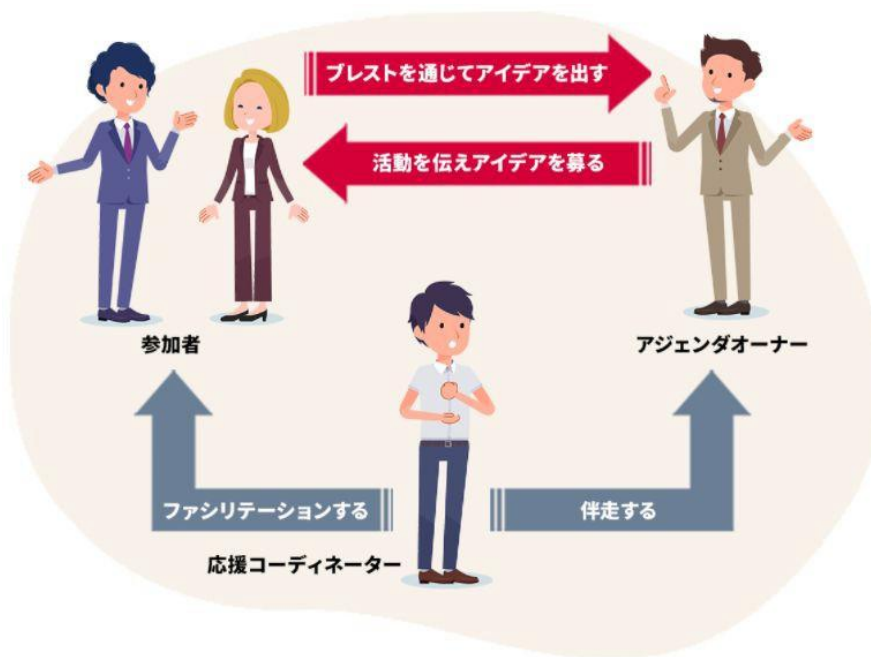
つながる

「打合せしたい」「紹介したい人がいる」など応援アクションを表明できる"応援フォーム"を通じて繋がります。

4

つづける

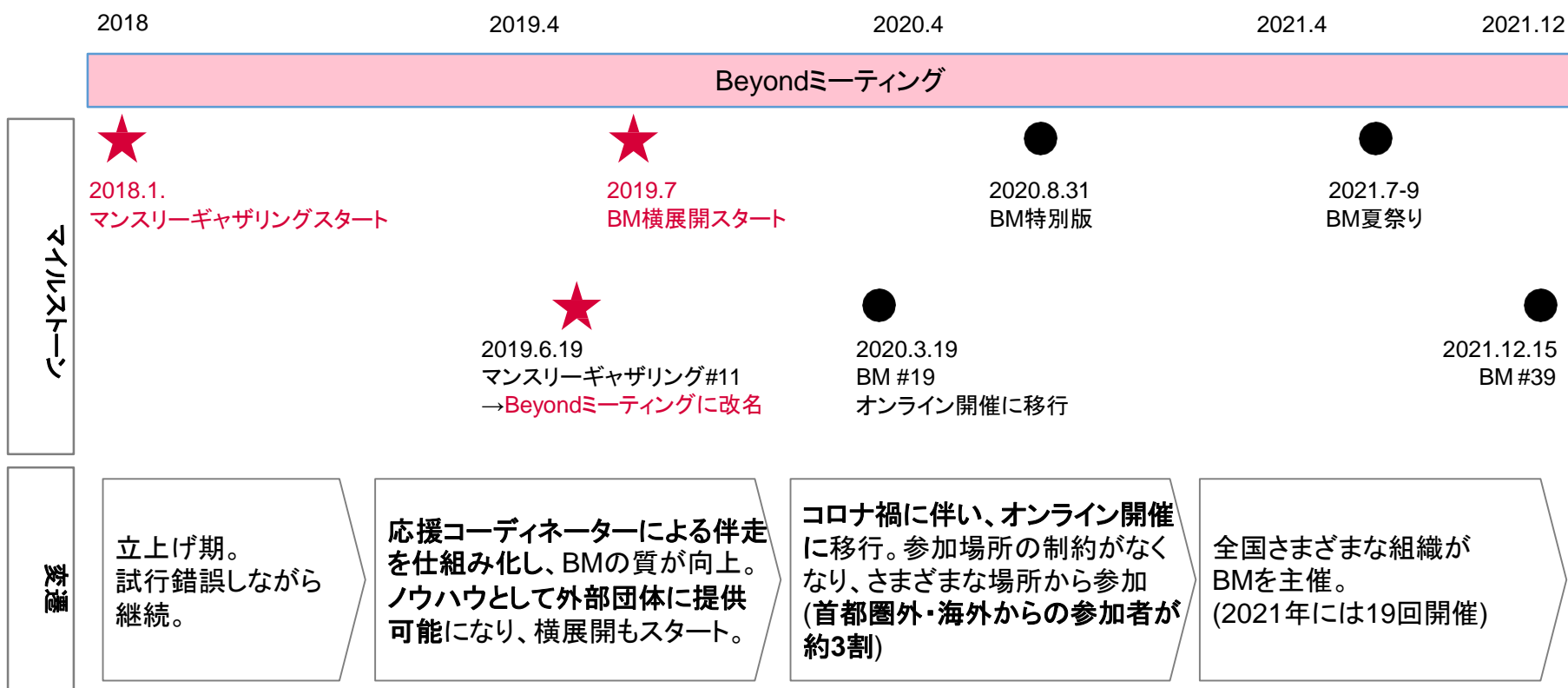
参加者限定オンラインコミュニティ「BM Talk」に参加いただき、繋がりを継続いただけます。



Beyondミーティングの軌跡

- カマコン*に影響を受けたETIC*の有志を中心に、2018年に前身となるマンスリーギャザリングを開始しました。マンスリーギャザリングをBeyondミーティングと改名し、応援コーディネーターの整備やコロナ禍でのオンライン対応などをしながら、現在まで運営されています。

Beyondミーティングの軌跡



*1カマコン: <https://kamacon.com>

BMIは「カマコン・フォーマット」をカスタマイズしており、「全力応援」や「ブレスト文化」などの価値観もカマコンに由来している。

*2ETIC: <https://www.etic.or.jp/>

BM主催数・アジェンダオーナー/参加者数①

- BM運営事務局と事務局以外の自主開催分で合計**82回**のBMが開催されています。
- のべ**484名**のアジェンダオーナーに登壇いただき、合計**4,437名**がBMに参加しています。

BMの運営実績

開催回数	アジェンダオーナー人数	参加人数
82回	484名	4,437名

BM運営事務局	42回	205名	1,974名
企業	11回(6社合計)	51名	615名
地域団体等*	29回	228名	1,848名

※数字は2022年2月末時点。BM運営事務局以外の自主開催分(企業・地域団体等開催分)は、BM運営事務局にて報告を受け、把握している範囲で記載。

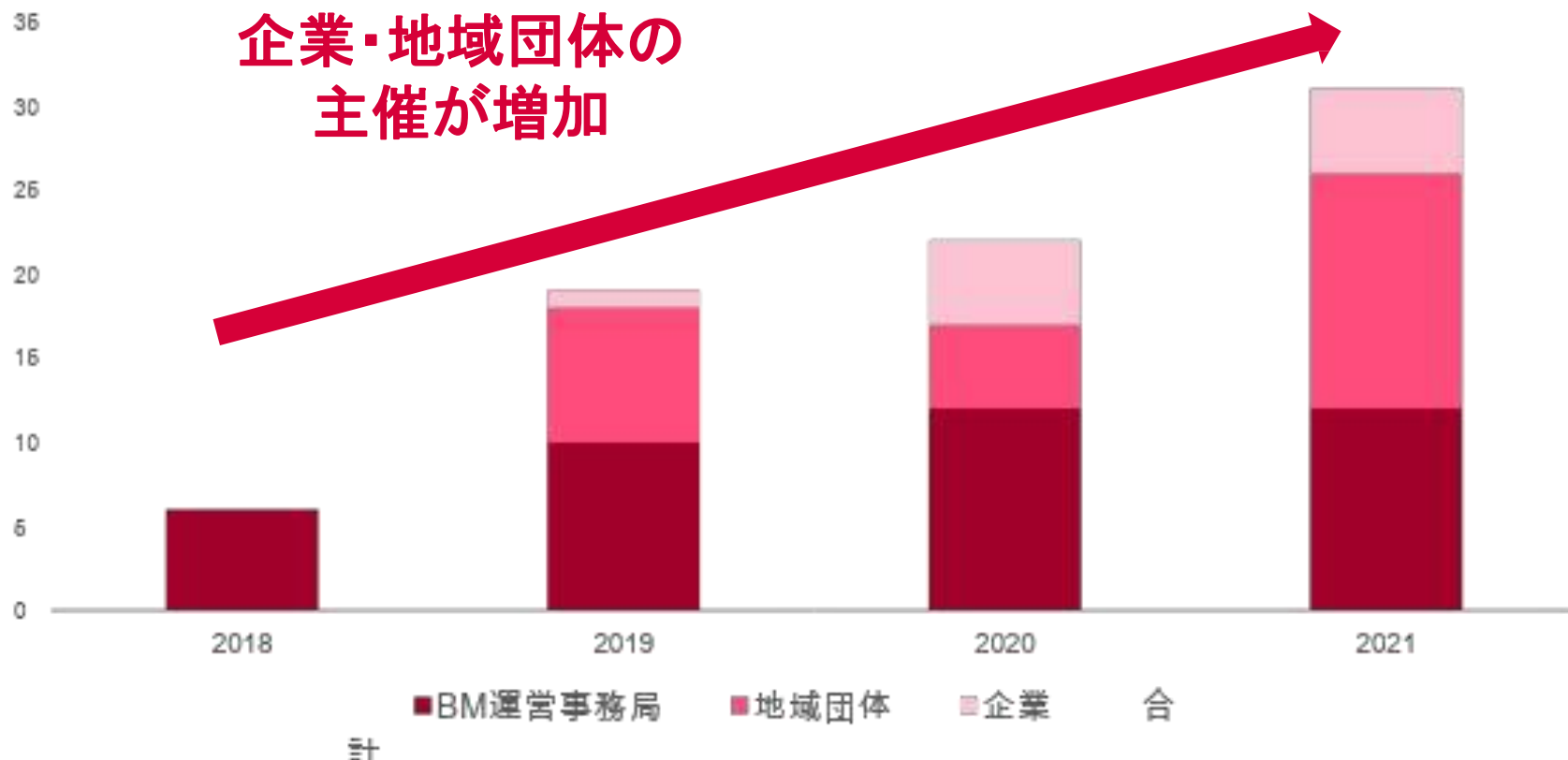
*地域で活動しているNPO法人や教育・行政・公共団体など

BM主催数・アジェンダオーナー/参加者数②

- 月1回を目安にBM運営事務局が実施しているBMに加え、aBCパートナーを中心とした企業や全国各地の地域団体による自主開催数も近年増加傾向にあり、BM開催数が増加しています。

主催者ごとのBM主催回数

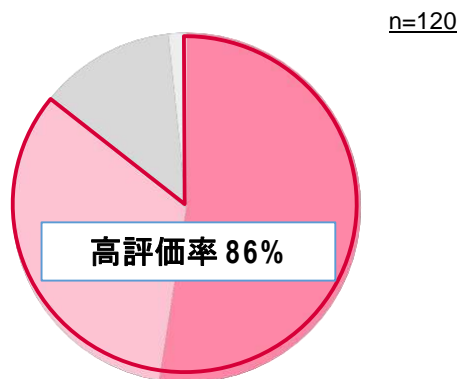
(回)



アジェンダオーナーからの評価①

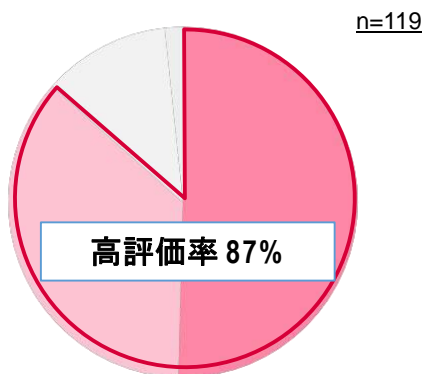
- 運営事務局主催のBMIに登壇したアジェンダオーナーの **約85%** から、とても満足/満足と肯定的な評価・コメントをいただいています。

登壇に関する満足度



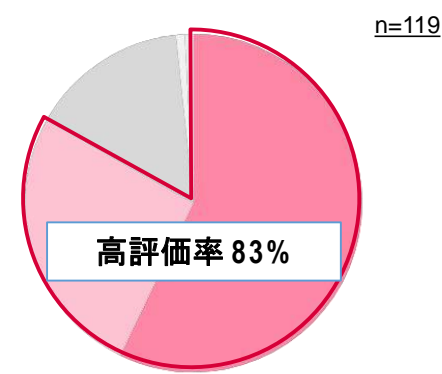
■ 5. とても満足 ■ 4. 満足 ■ 3. 普通 ■ 2. 不満

ブレスト会議に関する満足度



■ 5. とても満足 ■ 4. 満足 ■ 3. 普通 ■ 2. 不満

参加者の応援コメントに関する満足度



■ 5. とても満足 ■ 4. 満足 ■ 3. 普通 ■ 2. 不満 ■ 1. 大いに不満あり

- ・司会の方が柔らかい空気を作ってください、助かりました。
- ・一人ひとりの熱い思いが伝わってきて良かったです。様々な方面で様々なニーズに応えたり社会解決にとりくむべく、活動されていることがよくわかりました。
- ・伴走してくれた〇〇さんのおかげで、最高のピッチ資料が完成しました。
- ・思考の整理の機会になりました。

- ・ファシリテーターの方が主導してくださってとてもやりやすかったです。
- ・オンライン会議となりましたが、十分な情報交換・ディスカッションができました。
- ・自分では思いつかないアイデアを聞くことができた。
- ・全く違う視点の意見を聞いたのでよかったです。
- ・想像以上にいい視点を、しかも数多くもらえたため。

- ・「共にこのアイデアを動かしたい」と記入してくれた人が4人もおり、とても心強い。アイデアだけでも嬉しいのに、このピッチがきっかけでチームが作れそうな予感までしています。
- ・応援メッセージをいただきすごく勇気付けられました。
- ・嬉しいお言葉が多く、励みになります。
- ・多くの方々が自身の取り組みに共感してくれていることに感動！

アジェンダオーナーからの評価②

- アイデア獲得や人脈の拡がり、活動の広報など**AOの事業に対する効果**に加え、応援を受ける事でのモチベーションの維持向上、学びや気づきの獲得など**AO個人に対する効果**も得られています。

アジェンダオーナーの事業に対する効果

アイデアの獲得

- 自分では思いつけないような**アイデアをたくさん提案**していただいたこと
- **たくさんのよいアイデア**をいただけたこと
- 参加者が体験談を話してくれたこと
- **異分野の方からの、普段得られない視点からの新鮮なアイデア**が得られたこと。
- **幅広い立場の人からアイデア**をいただけたこと
- **構想していたことと同じアイデアが出たこと**で勇気もらった。対象者をより明確にできた。すでに共創の場を運営している人が体験談を踏まえてアイデアを出してくださったことや、出会えたこと。
- **経営課題を解決するかもしれないアイデア**をもらったこと。自分にとって重要な課題をプレストテーマにしてよかった。
- **豊富なアイデアや自分の事業を外から見たらどう見えるかという視点**

人脈の拡がり

- 弊団体のOBOGの方とお話しできたこと
- **事業を協力してくれそうな方々**と出会えたこと
- **多くの方と繋がる**ことができたこと
- 自社社内の応援と繋がり
- **実際に繋がりたいと言っていただけの方に**出会えたこと

活動の広報

- **サービスを認知**してもらったこと
- **多くの人**の前で事業内容を知ってもらえたこと
- この事業内容を公にできたということ、それに対して、反応してくださる方がいて、手を差し伸べてくださる方がたくさんいるのを知れたこと

アジェンダオーナー個人に対する効果

応援されることの嬉しさ

- 自分が思っていた以上にみなさんが共感したり、前のめりにアイデアをくれたこと
- 「そういうの、やりたいと思ってた！」と感じている人が複数人いた事。そして、その後も一緒に動かせたいと感じてくれたこと。
- **応援してもらうことの嬉しさ**を感じた
- **熱意を伝えれば、熱意が返ってきたこと**。人っていいなって思いました。

自身の学び・気づき

- **企業に広げるための具体的アイデア**と言うより、**考え方を教えてもらいました**
- 他の方のプレゼンから学ばせていただくことが多かったです。ありがとうございました。
- **今後深掘りしたい問い**が見つかったこと
- **自分の認識の偏りと、前提となっていた常識が当たり前ではなかった**ことが何か分かりました



アジェンダオーナーからの評価③

- 過去のBMへの登壇経験は、アジェンダオーナー個人やその事業に対し、継続的に良い影響を与えていると回答をいただいています。

過去のBMへの登壇が今の自分に与えている影響

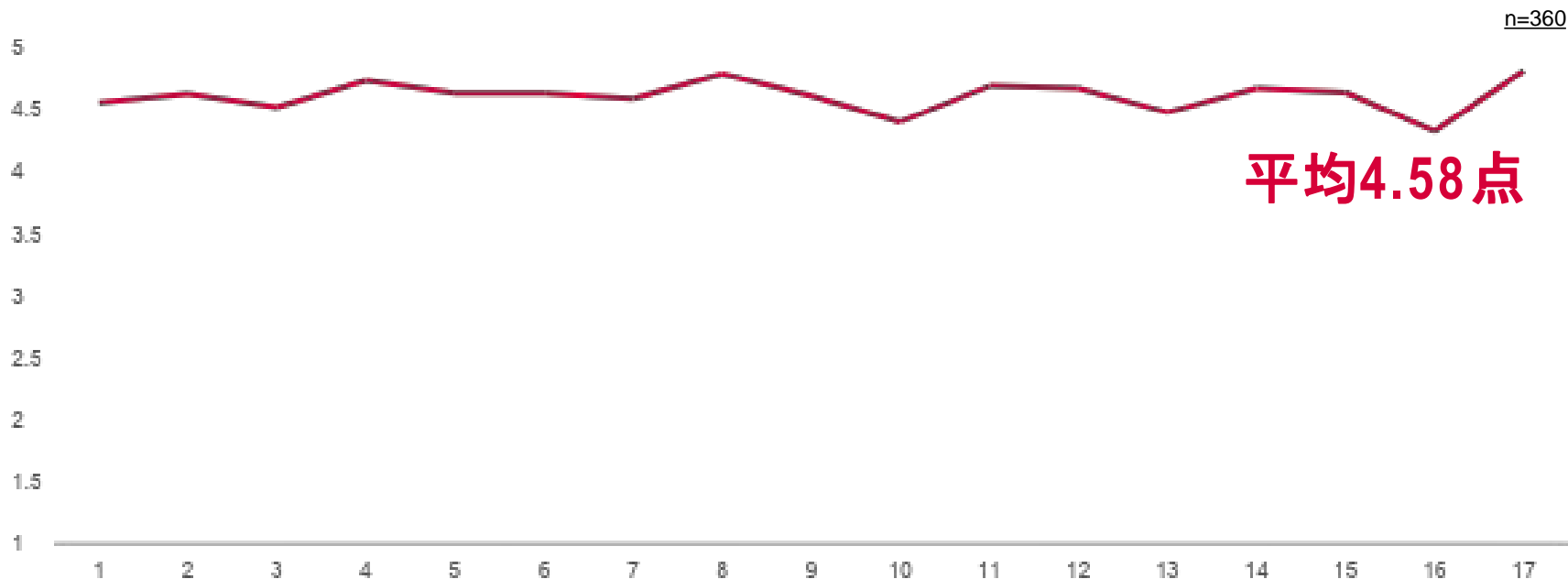


- コンセプトを端的に説明できるようになった。手段より目的を意識できるようになった。
- 自社の取り組みの価値を再認識できた。
- 社会的ニーズがありそうだということが確認でき、その後プロジェクトを継続するモチベーションになっている。
- 弊社からの参加者数名から声をかけてもらい、社内での活動をスタートすることが出来た。
- 人の繋がり。その時に繋がった方からのご紹介の人が今の創業メンバーです。
- 新たに専門家の方が応援者になっていただき現在もコンサルとして関与いただいています。

参加者からの評価①

- BM参加者アンケートの平均点は **5点満点中4.58点**であり、高い評価を受けています。
- 回答360件の内、ユニーク回答者数が 280名であり、リピーターも多く参加するイベントになっています。

参加者の満足度

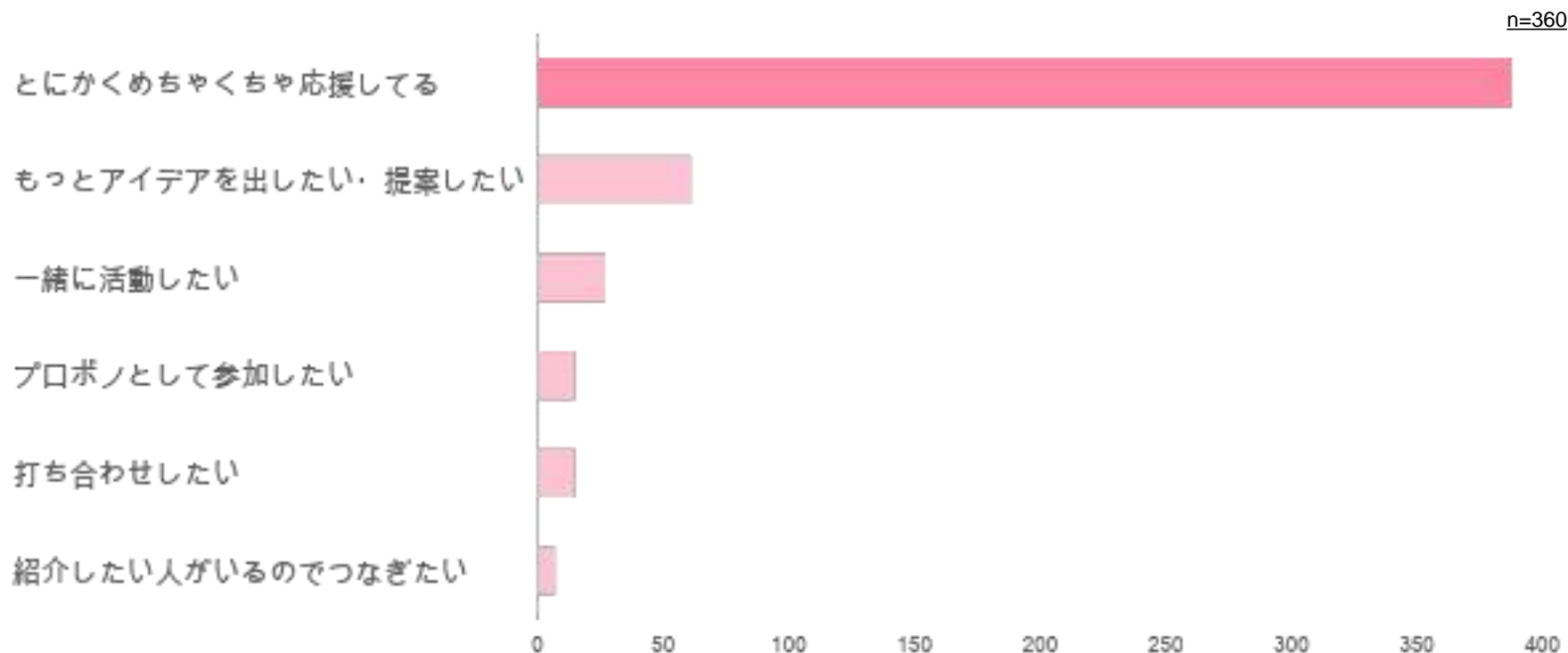


- 6名も登壇者がいると、リンクしやすい事業分野やアイデアがあること、その場で協働やコラボが生まれることを実感しました。
- アイデアのつながり、否定しない場の重要性を感じました。ありがとうございました！
- まさに垣根を越えた感じがしました！繋がりが生まれたのがほんとうによかった！特にアジェンダオーナーとつながれたのはすごく良い。
- 今回アジェンダオーナーの所属の会社の方も沢山参加していたが、提案者だけではなく、社員の方々も外部の方々の意見に触れられるのは有意義なのではないか。
- 自身の事業と同じ領域の教育テーマが2件あり、非常に勉強になった。

参加者からの評価②

- アジェンダオーナーに対し**合計388件の応援メッセージ**が寄せられており、意志ある挑戦を応援する仕組みとしてBeyondミーティングが機能していると言えます。

参加者からアジェンダオーナーへのメッセージ



備考:各参加者はBMの終了後、複数のアジェンダオーナーに対しメッセージを送信できる。

360名の参加者が合計388件の応援メッセージを送信していることから、各参加者にとって平均1名以上、応援したいアジェンダオーナーが見つかったことを意味する。

応援コーディネーターから見たBeyondミーティング

- 応援コーディネーター(以下、応援CD)は、AOとBMIに貢献すると同時に、活動を通じて学びや気づきを得ています。自社社員の教育やSDGs活動の一環として応援CDを派遣している企業も多く、所属を問わずどなたでも立候補いただけます。



安田 圭佑さん
京都の電子部品企業

普段は会社に所属し、新規事業の企画推進を担当しています。
起業家の方を伴走させてもらう中で「こんなに熱量ある人たちがいるのか！」と驚かされ、勇気をもらい、励みになっています。「子供向けサプリメント」や「女性の社会進出」等、いつもは考えないことを考えるきっかけにもなりますし、妻との話題が増えたことも思わぬメリットでした(笑)
まずは自分が応援フルになり、応援力に磨きをかけ、次のステップは会社の応援文化の普及に挑戦します！



森本 定美さん
アビームコンサルティング株式会社/デジタルテクノロジービジネスユニット IES
セクター



私が感じる応援コーディネーターの面白味は2つあります。
1つ目は「問題を自分ゴトとして認識するようになり、応援する過程で自分自身の学びにもつながること」です。登壇者の方と深く関わり、抱える悩みに対し一緒に本気で考えられるのは、応援コーディネーターだからこそだと思います。2つ目は「登壇者と参加者の間でつながりや発展が生まれるのを手助けできること」です。まさに垣根を超える”Beyond”を直接手助けできることに大変やりがいを感じます。



高橋 弘人さん
(一財)地域活性化センター/山形県長井市役所



私は雨水活用による持続可能な社会を目指す、しまあめラボさんをサポートさせていただきましたが、自分がこれまで関心を寄せてこなかった分野を知り、興味を抱ききっかけになりました。
また社会課題や自分が実現したいことに向かって進むパワーを感じることもできました。
この経験から改めて社会課題解決に強く惹かれるようになり、自治体職員として自地域を考えるきっかけになりました。自分の成長には小さなチャレンジを繰り返して行くことが重要だと思っており、応援コーディネーターも小さなチャレンジの一つで、この経験が自分の糧になると考えています。